

1. 新庁舎建設に関する考え方について

● 新庁舎建設に関する対案の考え方について

八代市の財政状況は決して余裕のあるものではないとの認識である。庁舎建設を考えるとき、既存の施設を有効利用し、建設費をできるだけ抑制することは当然検討すべきことである。

財源は特例債を利用する事業であるが、特例債も借金であり、補助金では決してない。交付税は減少していくのが現実であり、後世に少しでも負担を残さないように、経費は最小限に抑えながら建設し、高齢化社会対応であったり、その他の住民サービスの充実に努めるべきである。

新庁舎の持つべき機能は、当然、防災対策、災害対応が迅速にできること、高齢化社会に対応する市民サービスの提供ができるることは前提である。

また、将来の人口減少に合わせて職員の減少も行うように努力すべきであり、最小の経費で最大・最高のサービスの提供ができるように、常に工夫を重ねられたい。

● コンセプト

- 既存施設の有効利用を諮り、地域の活性化を図るとともに、新庁舎建設費用を抑える。
- 防災対策・災害対策を強化するためにリスクを分散する
- 高齢化社会に対応する市民サービスの提供のため、「来ていただく」対応から「出かける」サービスへと転換する。
- 職員のための効率性を優先させるのではなく、市民の立場に立ったサービスの提供。
- 将来的な組織再編・機構改革を視野に入れた配置案

● 新庁舎の規模・機能の設定

1. 分散型の提案

- 将来的にも分散型を目指すのか または、・当面の分散型の提案(将来は集中型)なのか



・千丁支所	107人
教育部	66人
市民環境部	
人権政策課	14人
経済文化交流部	
スポーツ振興課	8人
文化振興課	8人
選挙管理委員会	
	6人
監査事務局	
	5人

・集中型への移行時期
人口動態、千丁・鏡の耐用も鑑みながら決定
増築が必要であれば基金積み立てで対応
・将来的な支所の位置づけは執行部の説明通り

・鏡支所	82人
農林水産部	70人
農業委員会	6人
建設部	
用地課	6人

・鏡保健センター2階	44人
<u>水道局</u>	19人
下水道総務課	18人
下水道建設課	7人

・議会棟	10人
議会事務局	10人

・千丁支所	107人
・鏡支所	82人
・鏡保健センター2階	44人
・環境センター	22人
・議会棟	10人

・環境センター	22人
<u>市民環境部</u>	
環境課	10人
廃棄物対策課	12人

合 計 265人

更に、このような案は検討できないものか提案します。

・中心市街地にコンパクトに建設し、経済文化交流部、商工会議所事務所、傘鉢等の展示場を併設できないか。
もしくは、空き店舗利用の方策は図れないか。

• 本庁
総務部
財務部
企画戦略部
市民環境部
→ 経済文化交流部
建設部
健康福祉部

庁舎の基本機能に要する施設規模:約 11,700 m² (下表参照)

八代市新庁舎の規模算定

区分	役職	職員数 (人)	換算係数	換算職員 数(人)	面積(m ²)	備考
a) 事務室	特別職	4	18	72	324	
	部長・次長級	35	4	140	630	
	課長級	40	3	120	540	
	課長補佐級	82	2	164	738	
	係長級	41	2	82	369	
	一般職員	269	1	269	1,211	
	その他	66	1	66	297	
計		537		913	4,109	
b) 倉庫			4,109 m ² × 13%		534	
c) 会議室等 (会議室・トイレ・洗面所その他の諸室)			職員数 × 一人当たり面積			
d)玄関・広間・廊下・階段その他通行部分			537 人 × 7m ² /人		3,759	
e)議会関係諸室			8,402 m ² × 40%		3,361	
					11,762	